

# ブリの回遊生態と資源レベルの推定

富山県水産研究所  
副主幹研究員 渡辺 健  
富山県水産漁港課  
主任 井野慎吾

## 1 背景・ねらい

ブリは古くから漁獲されてきた重要魚種であるが、詳細な 分布範囲、回遊パターンは不明であった。

ブリの資源研究の一環として、我々の研究グループ（富山、石川、福井県の各水産研究所、独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所）は、標識放流調査等を実施し、年齢別に分布範囲・回遊パターンを明らかにした。その成果を踏まえ、日本海沿岸各地の漁獲量データを解析した結果から、日本海北部の資源量レベルを年級（生まれ年）別に把握・推定する手法を見出し、漁況を資源量レベルから予測する手法を得た。

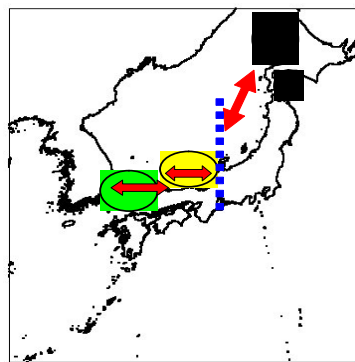
これらを紹介するとともに、資源管理の必要性について述べる。

## 2 成果の概要

(1) ブリの産卵場は東シナ海であり、稚魚・幼魚が流れ藻と併に対馬暖流に輸送されて日本海へ流入し、沿岸各地で生育する。  
能登半島以北に加入した稚魚・幼魚は、3歳の南下期まで能登半島以北で生育することがわかった。

(2) その成果を踏まえ、能登半島以北の日本海および青森県北部の太平洋沿岸におけるブリの漁獲量データを解析した結果、0歳時の漁獲尾数と以降の年齢時の漁獲尾数に正の相関がみられた。  
また、0歳時に加えて1～2歳時の漁獲尾数が極端に多い年級（生まれ年）については、3歳時（大ブリ）の漁獲尾数が少ない傾向がみられた（次頁表-1）。

つまり、未成魚期に多獲された結果、成魚の資源量（生残量）レベルが低くなった可能性が示唆され、産卵親魚の確保および成魚（大ブリ）漁獲量の安定を図る観点から資源管理方策が必要であると考えられた。



・ 北部日本海へ加入したブリは3歳の南下期まで能登半島以北で生育

図-1 ブリ未成魚の回遊パターン

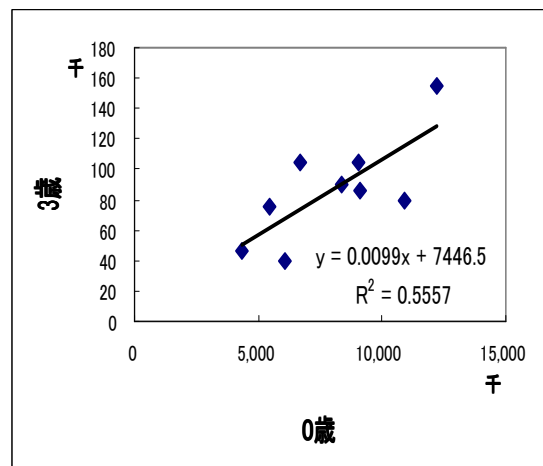


図-2 0歳時と3歳時の漁獲尾数の関係（能登半島以北、1995～2003）

### 3 成果の活用面・留意点

成果は今後、ブリ資源の評価および管理方策の検討、来遊量予測等の基礎知見として活用される。

### 4 問い合わせ先

富山県水産研究所 海洋資源課  
TEL 076-475-0036

担当：副主幹研究員 渡辺 健

### (参考) 具体的データ

標識放流調査によって明らかとなったブリの回遊生態から、能登半島以北の資源レベルを推定するため、石川県から青森県までの各県の漁獲量データを解析し、年級別に漁獲尾数を算出した(表-1)。

0歳魚の漁獲尾数が多い年級は2歳、3歳での漁獲尾数が多かった。

その関係から能登半島以北の資源レベルを推定する手法を見出した(前頁 図-2他)。

また、2004年級および2005年級をみると、0歳に加えて1~2歳時の漁獲尾数が極端に多いが、3歳時の漁獲尾数が少ない傾向がみられ、資源管理方策の必要性が示された(表-1)。

表-1 能登半島以北における年級別漁獲尾数

(単位:千尾)				
年級	0歳時	1歳時	2歳時	3歳以上時
1990	10,720	206	169	69
1991	4,559	206	98	93
1992	3,858	109	95	85
1993	2,603	136	51	62
1994	8,418	410	92	140
1995	9,083	221	108	86
1996	10,930	289	190	79
1997	5,443	193	174	75
1998	4,341	257	80	46
1999	6,704	420	115	105
2000	9,028	277	65	104
2001	12,191	510	156	155
2002	6,047	288	140	39
2003	8,363	487	174	90
2004	13,209	1,308	403	61
2005	15,477	746	226	
2006	9,774	651		
2007	10,568			

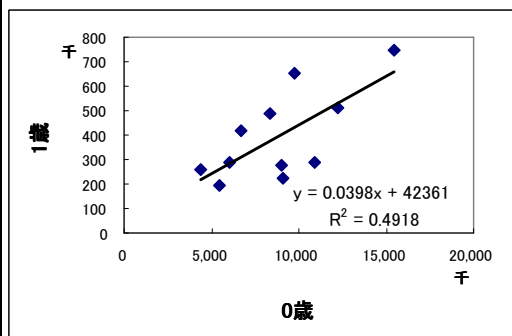


図-3 0歳時と1歳時の漁獲尾数の関係 (能登半島以北)

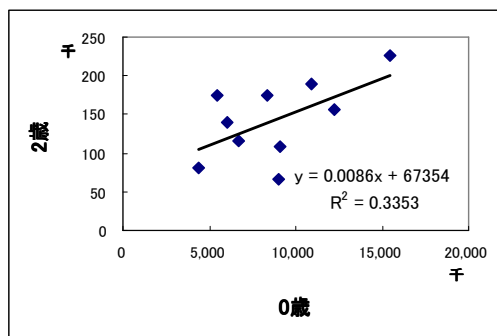


図-4 0歳時と2歳時の漁獲尾数の関係 (能登半島以北)